

父母の戦争体験と家族を亡くしたこと

匿名希望（母から聞いた話、25歳頃の話）

97才で亡くなった大正9年生まれの母の言葉です。

①大阪空襲の時、パラパラ雨のように火の玉が降ってきて逃げまどった。だから花火を見ると思い出す。

②イモのつるばかり食べていた。

③（沖縄出身で縁故疎開していた母ですが）10才の一番下の妹が強制疎開で対馬丸に乗り、1944年8月22日、九州へ向かいましたが、米の潜水艦の魚雷攻撃で沈没。何の連絡もない中、ウワサだけで知ることになった。「新しいハンカチを祖母に買ってもらい、とても喜んで、大阪に行くことを楽しみにしている」という手紙が届いた。

私の父のことを書きます。

大正14年生まれの父は、志願兵として17才ぐらいで台湾にいったらしいです。その間に1945年8月8日の九州、北九州、八幡、小倉への米の空襲で、自分の父母と弟2人、妹1人をなくします。大きな防空壕に逃げてその中で市民300以上が亡くなったそうです。戦後、復員してからその事実を知ったそうです。

父は存命中、私にひと言もそのようなことを話したことはありませんでした。私の母から聞いたのみです。